

# 令和4年度「市長と語ろう会」実施報告(概要)

## 実施目的

本市の広聴機能の充実に向け、市の重要施策や事業について、市民が要望・提案等ができる機会を拡充し、市政に関する関心や理解度を向上させるとともに、市民とのコミュニケーションの中で、各地域や世代・職業等による個別課題を共有し、市民と行政との協働によるまちづくりを推進する。

## ① 開催概要

### 開催テーマ

みんなで支え合う ふだんの暮らし  
～私が考える『高知市型地域共生社会』～

### 開催日程など

日時	対象 (開催場所)	参加者数
10月22日(土) 14:00～16:00	学生を中心とした若者 (オーテピア4階研修室)	10人
11月8日(火) 18:30～20:30	地域での活動に取り組んでいる方 (高知市役所本庁舎6階会議室)	11人
11月22日(火) 18:30～20:30	地域での活動に取り組んでいる企業、 NPO法人等 (高知市役所本庁舎6階会議室)	10人

### 市長からの説明内容

#### 「高知市型共生社会」の実現に向けて

- 社会情勢の変化
  - ・ 人口推計と少子高齢化
  - ・ これまでの福祉制度と課題
- 国の動向
- 地域共生社会とは
- 高知市の取組
  - ・ ほおつちよけん相談窓口
  - ・ 高知くらしつなごるネット(愛称「Licoネット」)
  - ・ SNSでの発信
  - ・ 課題解決型の地域づくり
- 事例紹介
  - ・ 広がるネットワーク(江ノ口西地区)
  - ・ 重層的な取組推進体制(秦地区、初月地区)
  - ・ 子ども食堂への支援  
(子ども食堂「なごみカフェしなね」立ち上げ支援、フードドライブの取組)
  - ・ 学生の地域活動支援(三里中学校生徒会ゴミ出しボランティア活動を支援)
- 「福祉のまちづくり」から「福祉でまちづくり」へ
  - ・ 地域福祉コーディネーターの配置



# 令和4年度「市長と語ろう会」実施報告(概要)

## ② 意見交換会で出された主な意見・提案

### 第1回

#### 学生を中心とした若者

##### 活動の中で感じている地域の課題など

地域の高齢者と関わる機会があったが、授業だけで終わってしまった。在学中にもっと地域と関わる機会があればいいと思った。

外出したい思いがあっても公共交通機関がなく、外に出られない高齢者がいる。人口の少ないところでは、交通面の課題があると感じている。

活動を通じて、周りを動かすことの大変さと、感謝をいただいた時のやりがいを感じている。

##### 若者が夢や希望を持って活躍できる高知市にするためのアイデア

夢を持つには、小さい頃に肯定された経験が大事。家庭や学校だけではなく、サードプレイスの空間など、子どもにとって肯定される経験ができる場所があれば、いろんな選択肢が生まれ、夢も抱きやすくなる。

こどもファンドは認知度が低く、新たな視点の活動が少なくなり、マンネリ化している。活性化のためには、こどもファンドの活動団体間など、地域活動に主体的に取り組む子どもたちの交流の場があればいいと思う。

高知市には小さい頃からいろんな経験のできる施設や環境が整っていることを情報発信することによって、より多くの子どもたちが自分の意見を持ち、考えて行動できるような経験のできる機会を増やしていくことが大切。

### 第2回

#### 地域での活動に取り組んでいる方

##### 活動の中で感じている地域の課題など

独居の高齢者が多いが、家から出てこないどこに誰がいるのかわからない。出てくるためには認知症カフェなどのきっかけが必要。

地域活動を担っているのが高齢者になっている。仕事の定年まで若い世代は地域活動をするのが難しく、次の世代が育たない。

居場所を提供することによって、緩やかなつながりをつくるのが一番大事。全部形を整えてから迎えるのではなく、ニーズを感じながら皆で作っていきというのが大きなポイントではないか。

子どもたち、保護者世代や高齢者も、人とのふれあいを求めていると感じる。

##### 地域での居場所づくりにおいて努力や工夫していること、活動の紹介など

一方的に強い者が支えるのではなく、支えられる側の意見も聞く必要がある。町内会を核とした地域の中で支え合えるような仕組みが必要。

それぞれの地域で誰かを見守りつつ、誰かに見守られているような地域社会は、いろんな線が少しずつ繋がっていくことで、力強い地域になれるのではないかと。

子どもとのつながりを大事にしていきたいと考えている。子どもが挨拶をすると、大人は自然と見習って返事や挨拶をするようになり、大人にも良い影響がある。

福祉の条例というのは、支えられる人がどうあったらいいかという条例が多いが、これからは支える人を支えるような政策が大事。

### 第3回

#### 地域での活動に取り組んでいる企業、NPO法人等

##### 取り組みを始めたきっかけや思い

(実際の活動を通じて)企業のミッションを実現するには、企業活動だけでは難しいということを感じた。

企業の社会貢献活動には、身近で分かりやすいことが大事。そのことで活動が社員の意識改革を促し、事業の拡大にも繋がっている。

市社会福祉協議会に相談することで、障がい者やセーフティネットのNPOなどと繋がり、新規事業の一部を担ってもらうことになった。会社として利益を追求するという経済活動の中で、地域貢献や福祉課題の解決などに繋がる取り組みにしていきたいという思いで事業をしている。

##### 取り組みを広げていくために必要なことやあればいいと思うこと

ただ情報を発信するのではなく、必要な人に届けるという仕組みや、どう届けるのが課題。

目の前にいる人に何ができるのかという思い。何か困った時に声をかけてもらえるようになるには、名前を呼び合える関係性がとても大切。

居場所が一つだけにならないように、いくつか作る必要がある。いつでも立ち寄ることのできる場所をいう機能を生かして、繋がりが続けることが大事。

中長期的に考えると小学生や中学生に、ほおっちょけんなどの活動を広げていかないと、今の子どもたちが主役になる社会が来た時に「知らない」となってしまう。そうならないように幼い頃から教育が必要。

その他、多くのご意見やご提案をいただきました。今回いただいたご意見やご提案は、今後の取り組みの参考とさせていただきます。